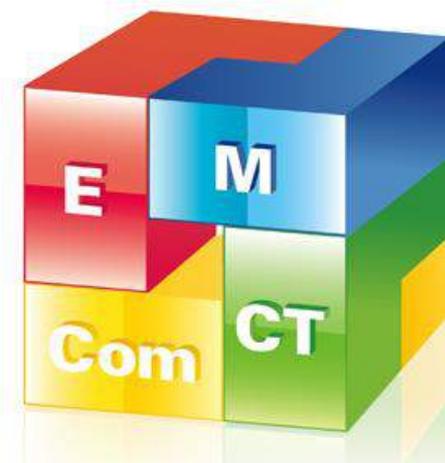


『世界に通用する技術で未来を創出』 Our Technologies Realize Your Dreams

2016年3月期
決算概況説明資料



2016年5月26日
オリジン電気株式会社

目次

2016年3月期 決算説明

◇連結決算の概要	P 3	◇連結売上高研究開発費比率	P 11
◇新中期経営計画に向かって	P 4	◇連結財政の状態	P 12
◇連結経営成績	P 5	◇連結キャッシュ・フローの状況	P 13
◇セグメント別連結売上高	P 6	◇配当の状況	P 14
◇製品別連結売上高比率	P 7	◇17/3期連結業績予想	P 15
◇海外顧客向け連結売上高	P 8	◇連結経営成績の推移	P 16
◇セグメント利益	P 9		
◇連結設備投資・減価償却費	P 10		

連結決算の概要

◇16/3期 決算概要

売上高	: 32,372 百万円	(前期比 ▲11.6%)
営業利益	: 1,560 百万円	(前期比 ▲46.9%)
経常利益	: 1,759 百万円	(前期比 ▲49.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	: 1,010 百万円	(前期比 ▲64.8%)

◇17/3期 計画概要

次期の見通しにつきましては、政府や日銀による経済・金融政策の効果などを背景に、雇用・所得環境の改善傾向は続くものと見込まれますが中国をはじめとした新興国経済の減速や円高の進行等による影響が懸念されるなど、予断を許さない状況が続くものと思われまます。

◇17/3期 連結業績予想

売上高	: 35,000 百万円	(前期比 8.1%)
営業利益	: 1,850 百万円	(前期比 18.6%)
経常利益	: 2,000 百万円	(前期比 13.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	: 1,300 百万円	(前期比 28.6%)

新中期経営計画に向かって

◆2015年11月、本社および本
社工場を4箇所分散移転
◆2016年4月からの新中期経
営計画に向かって「世界に通用
する技術で未来を創出」

● 北海道オリジン

間々田工場 ■ ● 埼玉第二

吉見工場 ■ ● 埼玉オリジン

● オーティーエス

本社事業所 ■ ■ 本社さいたま新都心オフィス

■ 瑞穂工場

● 東邦化研工業

■ 大阪支店

■ 名古屋支店

連結経営成績

(単位:百万円)

	16/3期	15/3期	主な要因						
売上高	32,372	36,625	売上高 前期比	エレクトロニクス 9,091 3.8%減	メカトロニクス 2,981 47.4%減	ケミロニクス 10,810 5.9%減	コンポーネント 9,488 5.3%減	合計 32,372 11.6%減	
営業利益	1,560	2,941	セグメント利益	エレクトロニクス	メカトロニクス	ケミロニクス	コンポーネント	調整額	合計
経常利益	1,759	3,498	16/3期	986	73	1,248	1,018	△1,767	1,560
親会社株主に帰属する当期純利益	1,010	2,872	15/3期	1,271	922	1,180	1,236	△1,669	2,941
<p>営業外収益に受取利息108百万円、受取配当金88百万円等を計上したことにより、経常利益は1,759百万円となりました。</p> <p>※調整額は各事業に配分していない全社費用であります。</p>									

自己資本 当期純利益率	4.4%	14.1%
総資産 経常利益率	4.1%	8.5%
1株当たり 当期純利益	30円32銭	86円15銭

◆POINT◆

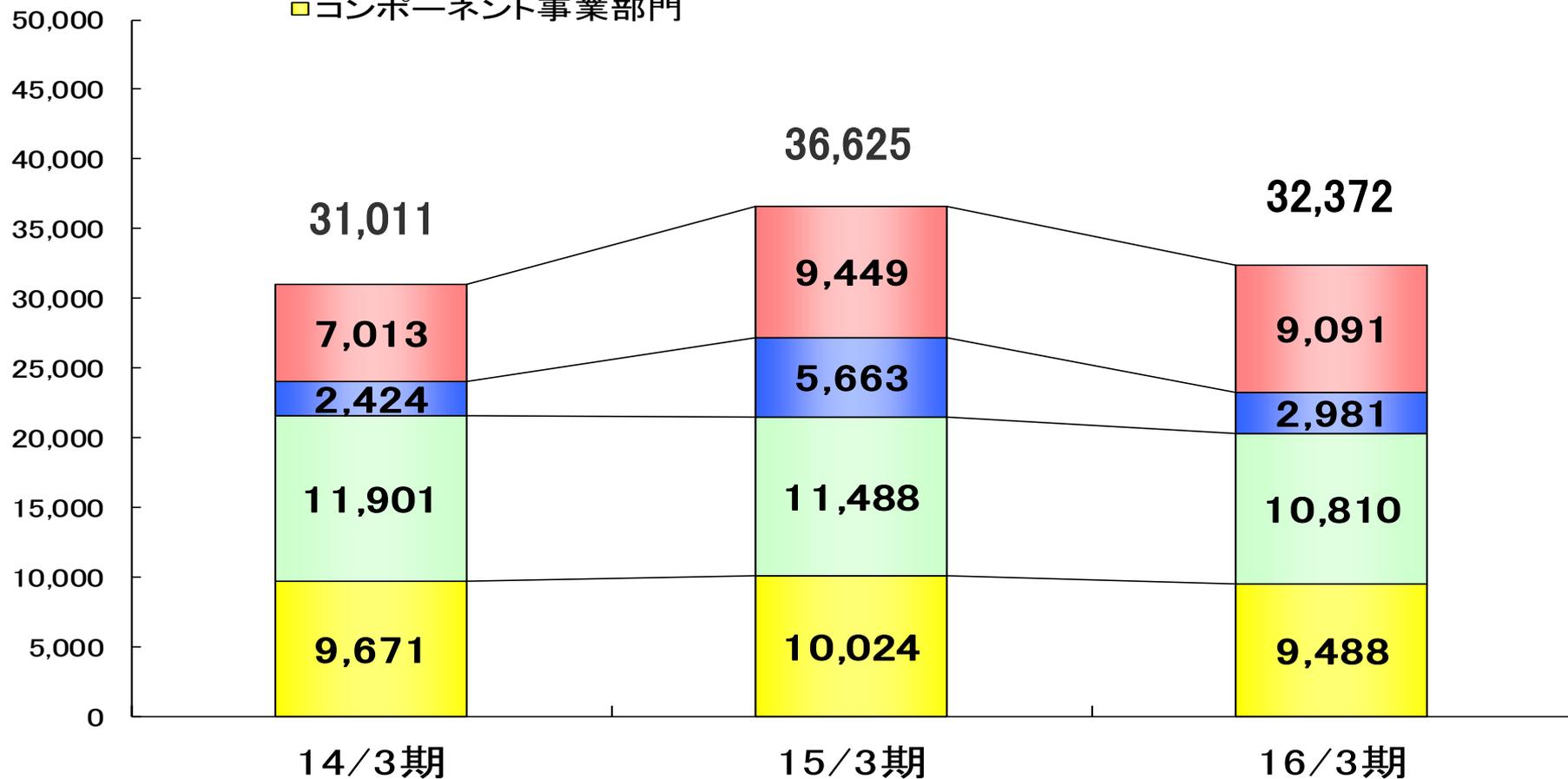
一連結経営成績分析一

売上高は主としてメカトロニクス事業が減収となり、323億7千2百万円（前期比11.6%減）となりました。

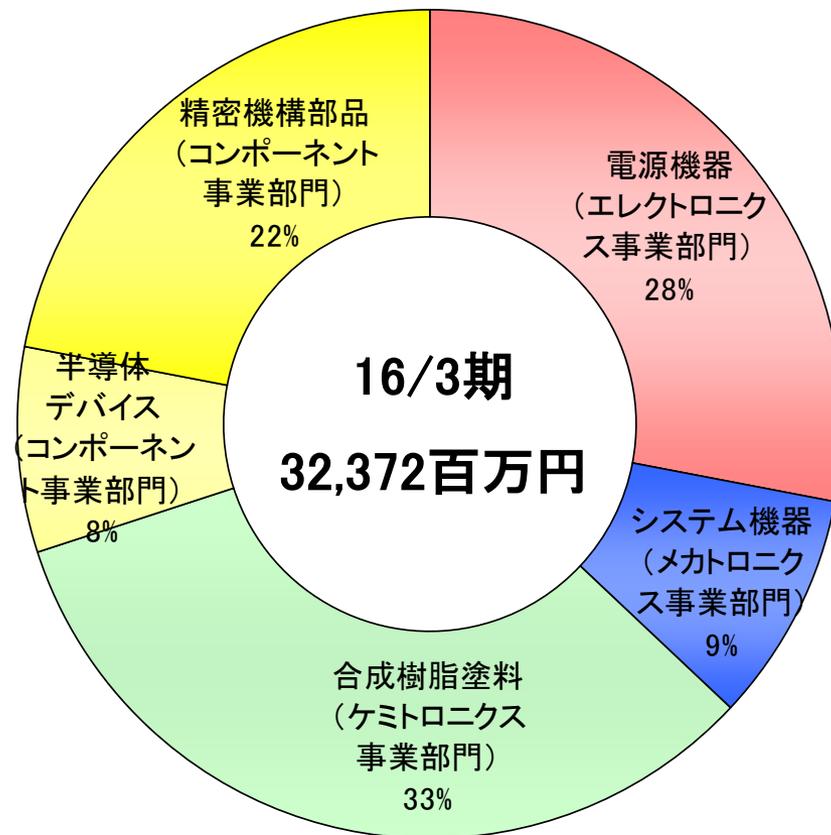
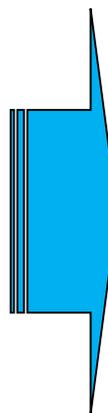
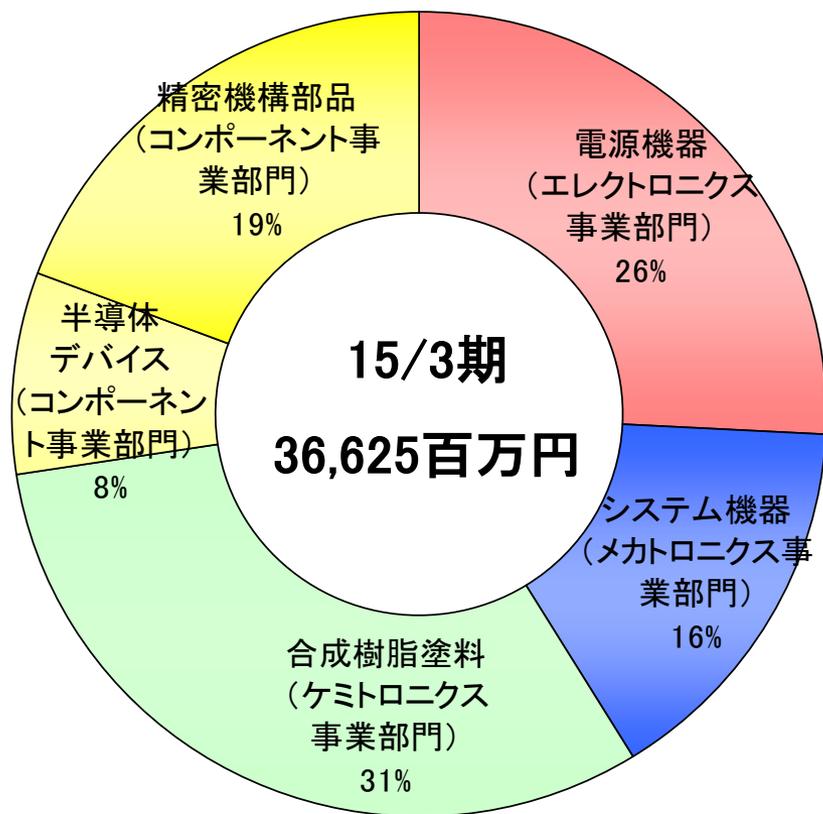
セグメント別連結売上高

- エレクトロニクス事業部門
- メカトロニクス事業部門
- ケミトロニクス事業部門
- コンポーネント事業部門

(単位:百万円)



製品別連結売上高比率

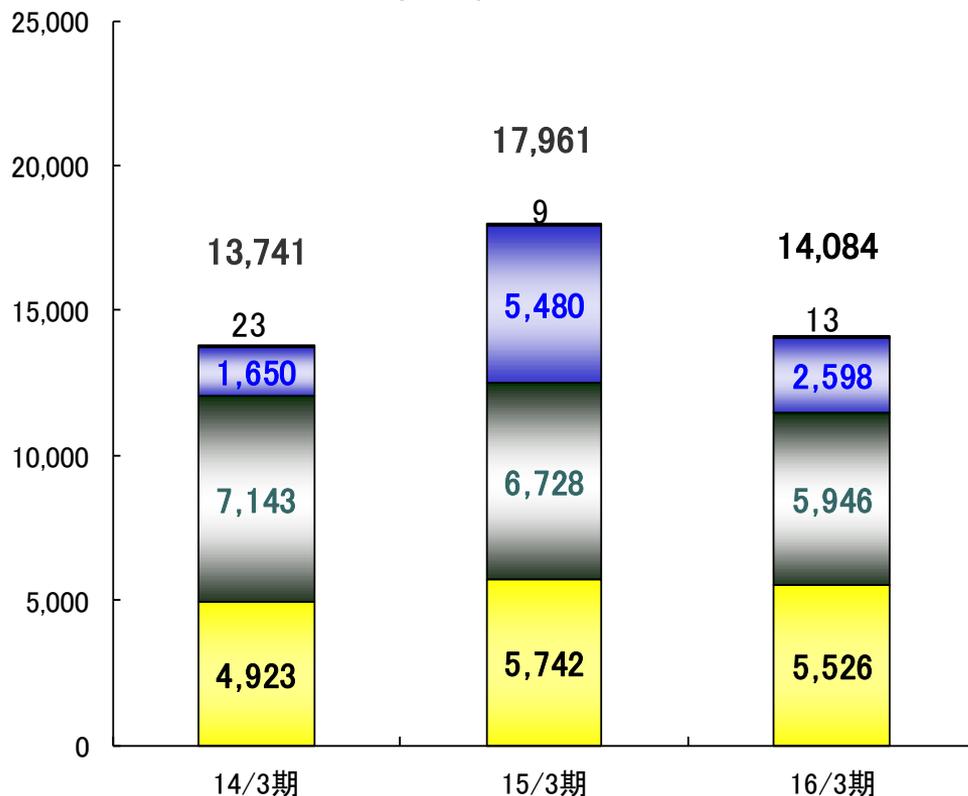


海外顧客向け連結売上高

—セグメント別—

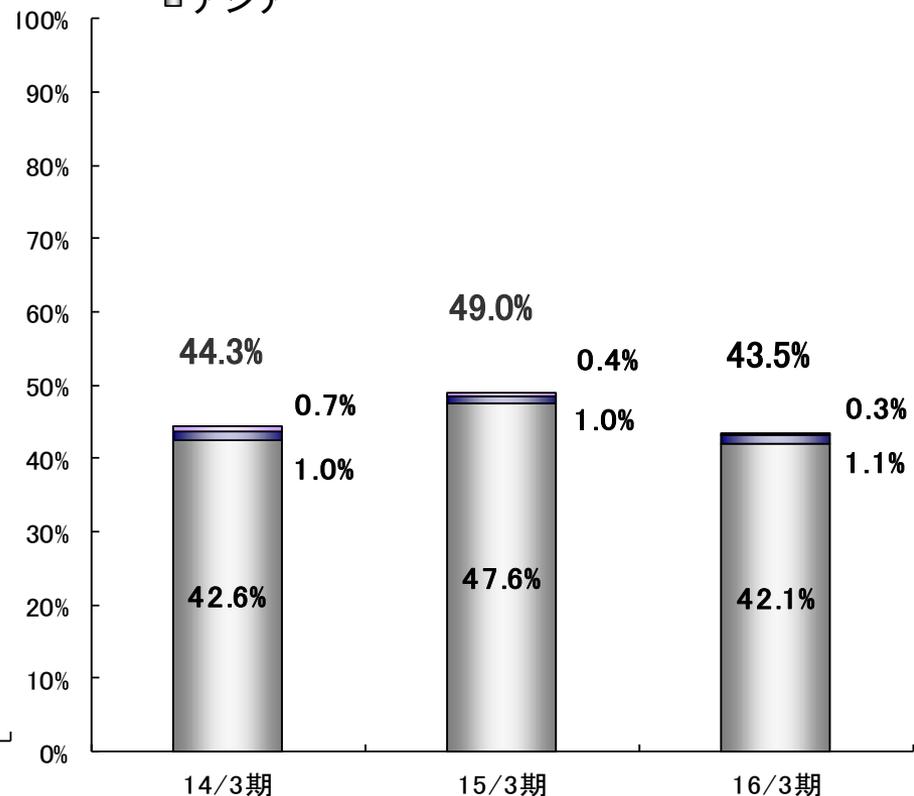
- エレクトロニクス事業部門
- メカトロニクス事業部門
- ケミトロニクス事業部門
- コンポーネント事業部門

(単位: 百万円)

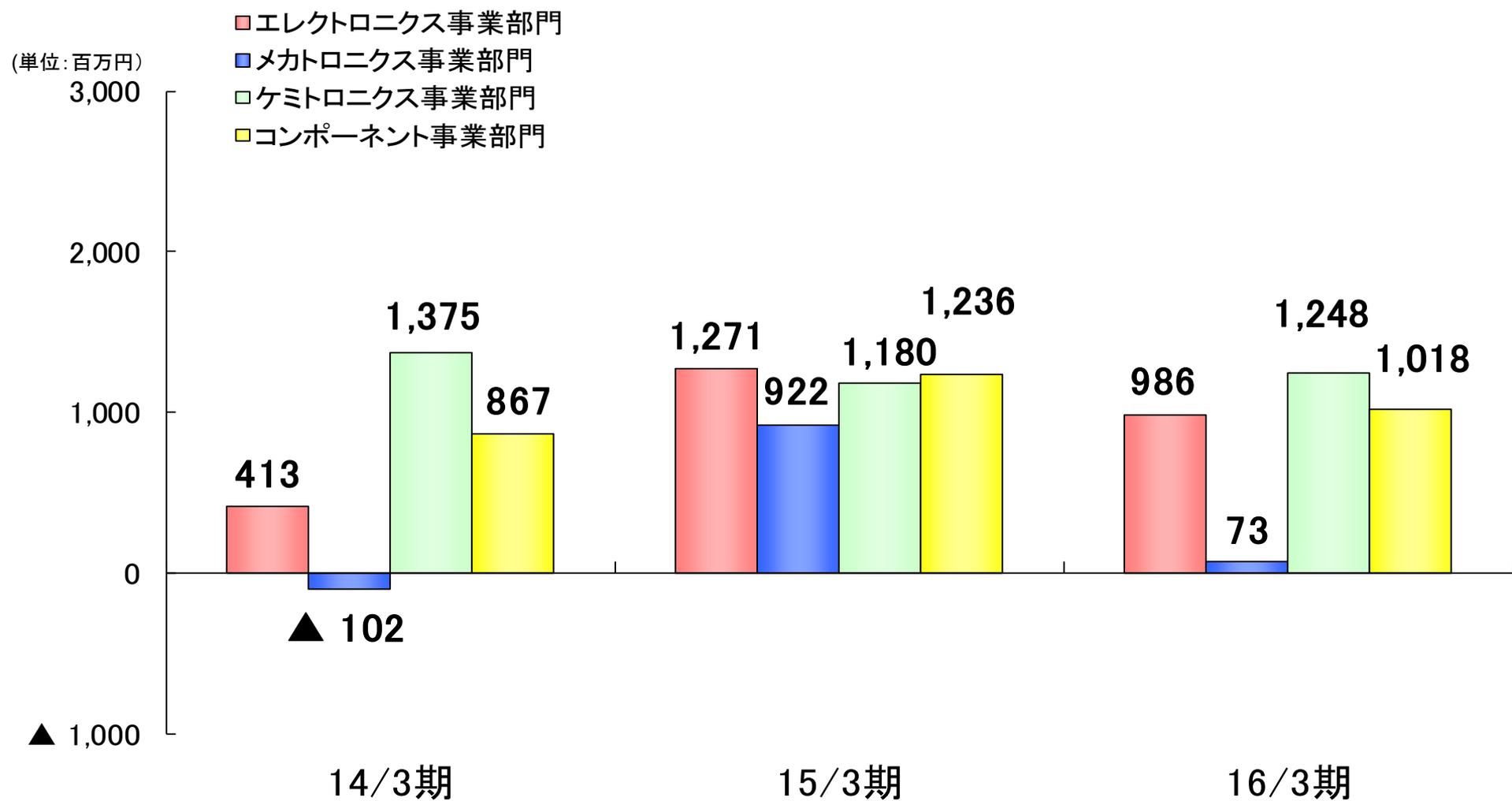


—地域別—

- その他地域
- 北米
- アジア



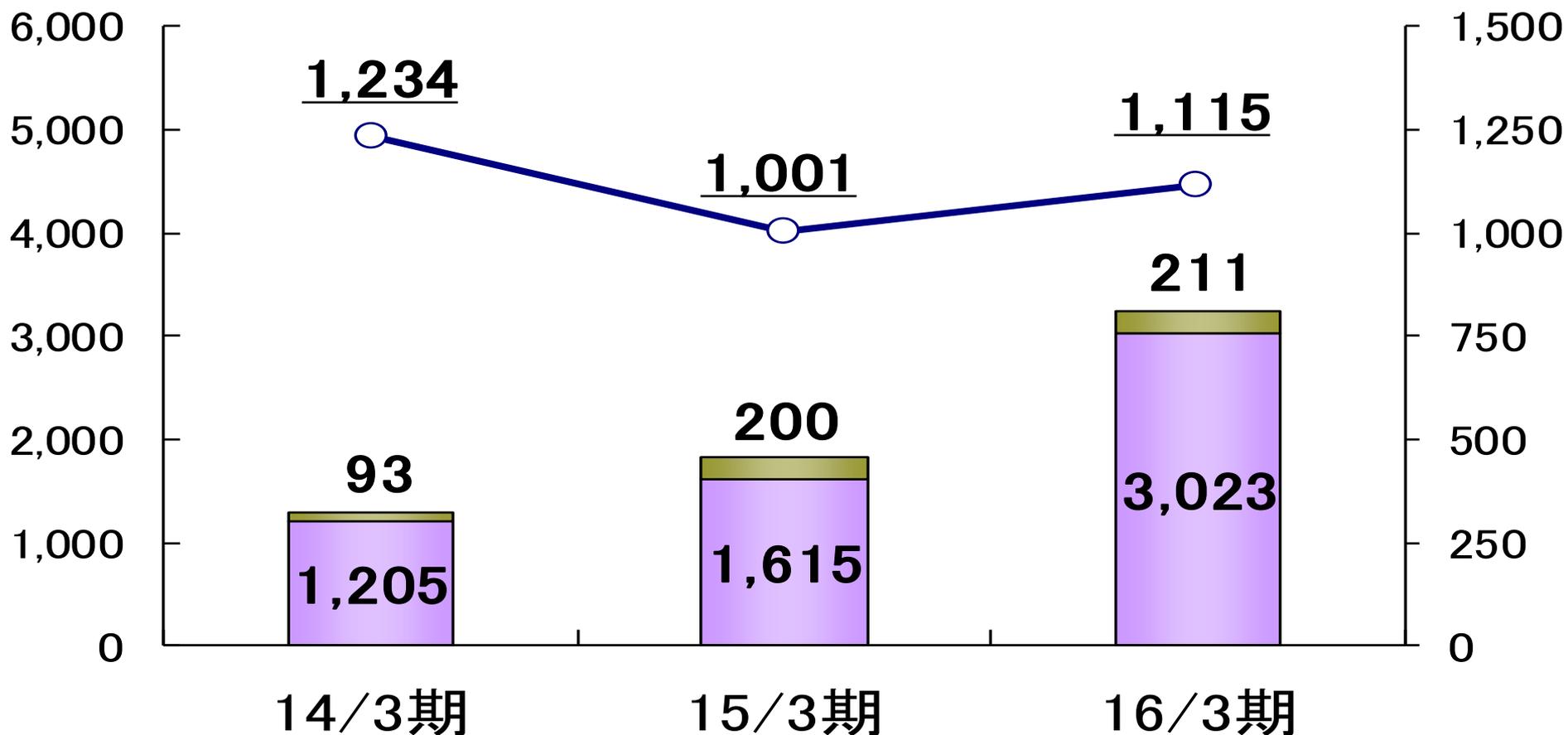
セグメント利益(全社費用配分前)



連結設備投資・減価償却費

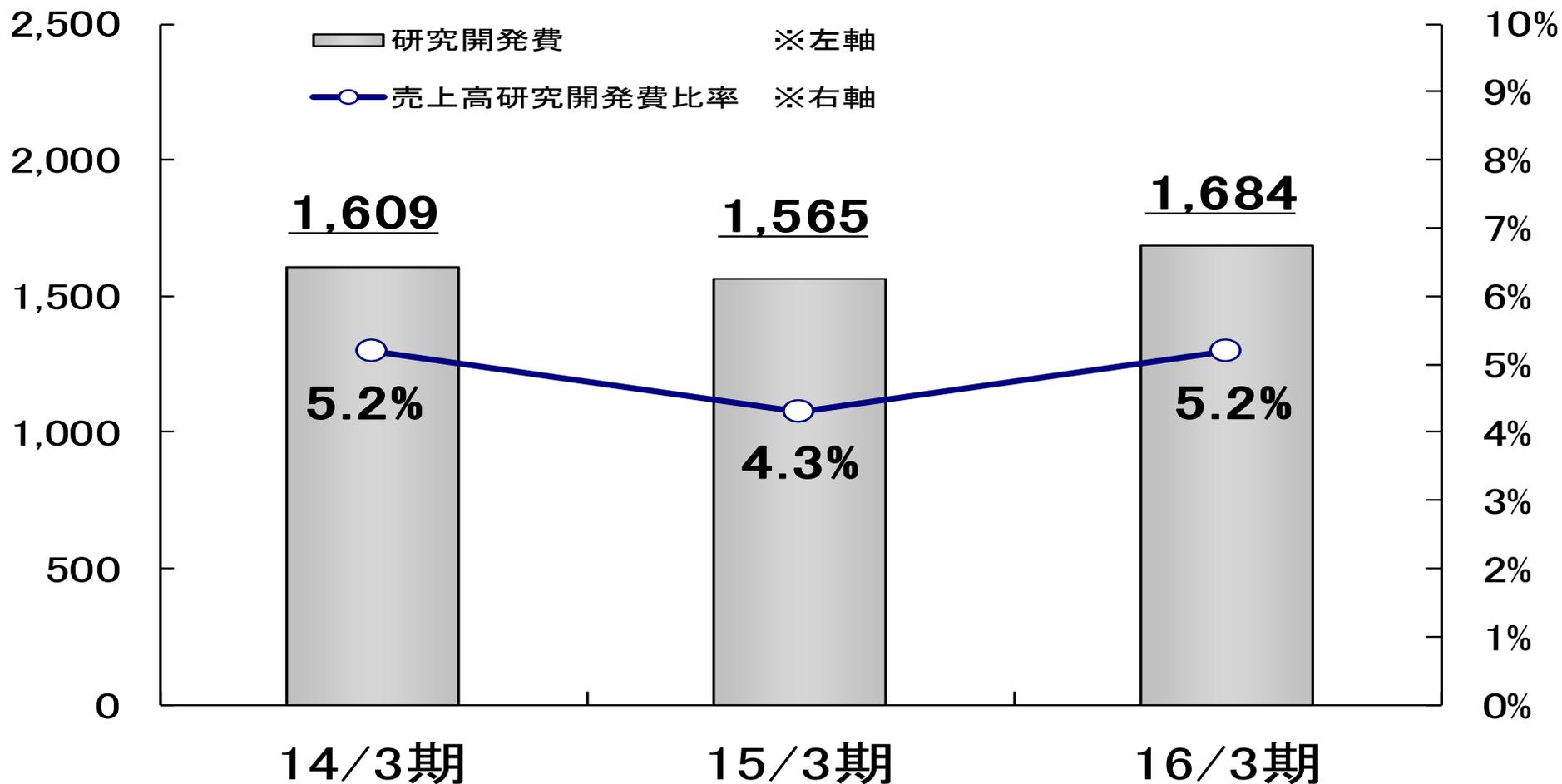
■ 設備投資(無形) ※左軸
■ 設備投資(有形) ※左軸
● 減価償却費 ※右軸

(単位:百万円)



連結売上高研究開発費比率

(単位:百万円)



連結財政の状態

(単位:百万円)

	16/3/31	15/3/31	主な要因
流動資産	25,935	27,534	前期末比1,598減少 : 電子記録債権663増加、受取手形及び売掛金2,340減少
固定資産	16,828	15,093	前期末比1,734増加 : 建物及び構築物2,550増加、建設仮勘定965減少
流動負債	12,556	11,050	前期末比273増加 : 短期借入金2,000増加、 長期借入金530減少、退職給付に係る負債258減少
固定負債	4,652	5,884	
純資産	25,555	25,693	
総資産	42,764	42,628	

	16/3/31	15/3/31
自己資本比率	53.7%	53.7%
時価ベースの 自己資本比率	21.7%	38.6%
1株当たり純資産	688円63銭	687円22銭

◆POINT◆

—連結財政状態分析—

本社及び本社工場移転に伴う新棟建設の完成による建物及び構築物の増加により、固定資産は前連結会計年度末に比べて17億3千4百万円増加いたしました。

連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	16/3期	15/3期	主な要因
営業活動によるC/F	2,515	3,566	収入の内訳は税金等調整前当期純利益1,659、売上債権の減少額1,515、減価償却費1,115 減少要因は退職給付に係る負債の減少額256、仕入債務の減少額139
投資活動によるC/F	▲ 3,774	▲ 2,227	有形固定資産の取得による支出2,922
財務活動によるC/F	957	▲ 1,029	増加要因は短期借入金の増加額2,000 減少要因は長期借入金の返済による支出530、配当金267、非支配株主への配当金200
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	▲ 494	846	
現金及び現金同等物の期末残高	6,034	6,529	

◆POINT◆

—連結キャッシュ・フロー分析—

投資活動に使用された資金の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出29億2千2百万円であります。

現金及び現金同等物の残高は60億3千4百万円となり、前連結会計年度末より4億9千4百万円減少いたしました。

キャッシュ・フロー 対有利子負債比率	1.5年	0.7年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	78.0倍	104.2倍

配当の状況

(単位:円)

	16/3期	15/3期	17/3期 (予想)
第2四半期末	3.50	3.50	3.50
期末	3.50	4.50	3.50
年間	7.00	8.00	7.00

配当性向	23.1%	9.3%	17.9%
------	-------	------	-------

17/3期連結業績予想

(単位:百万円)

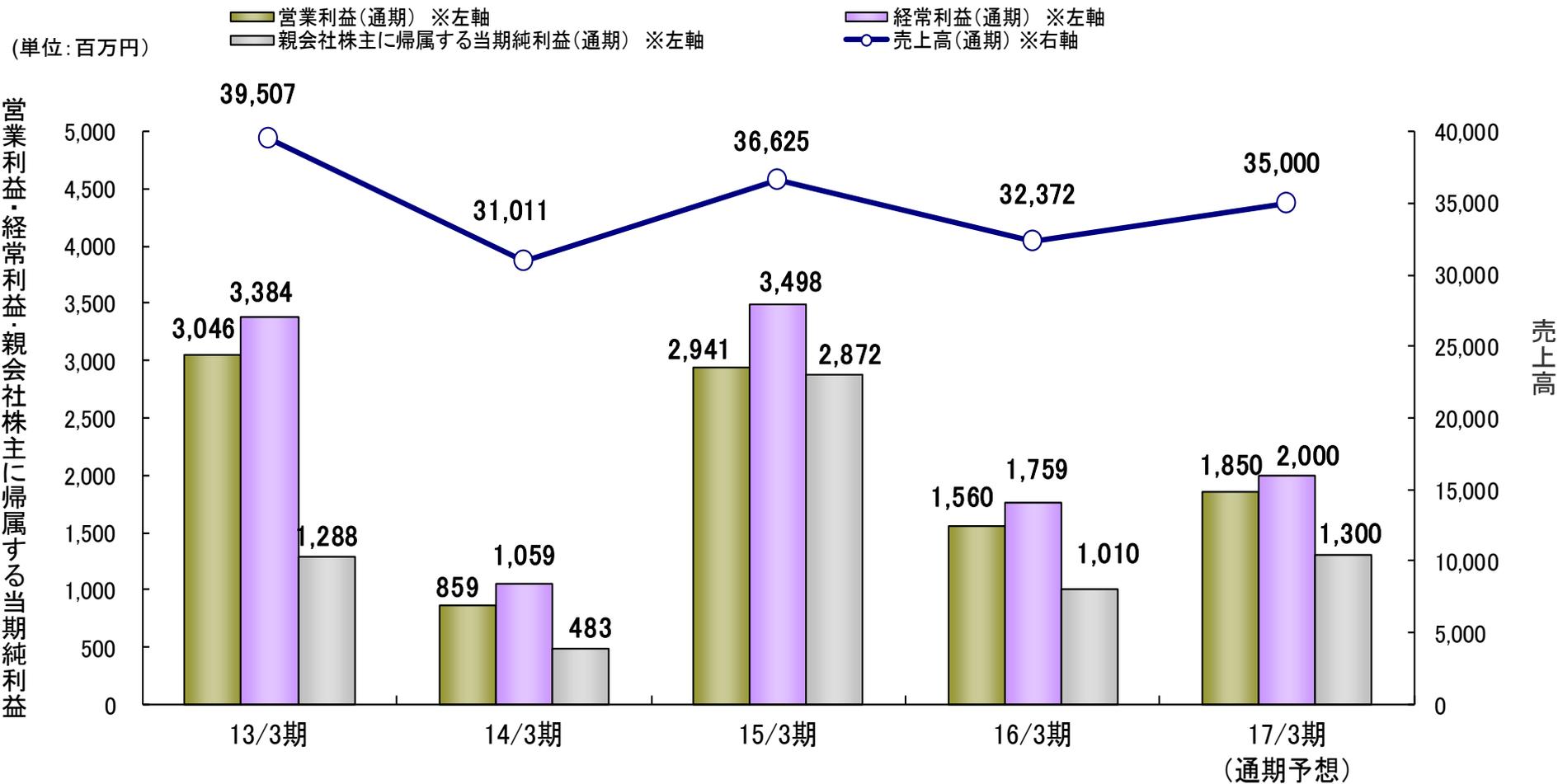
	17/3期 業績予想	16/3期	増減	増減率
売上高	35,000	32,372	2,628	8.1%
営業利益	1,850	1,560	290	18.6%
経常利益	2,000	1,759	241	13.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,300	1,010	290	28.6%

◆POINT◆

17年3月期の売上高のセグメント別内訳は、以下のとおりです。(各セグメントの予想は連結調整前)

- ・エレクトロニクス事業部門 90億円
- ・メカトロニクス事業部門 54億円
- ・ケミトロニクス事業部門 119億円
- ・コンポーネント事業部門 105億円

連結経営成績の推移



◇当資料はオリジン電気株式会社が作成したものであり内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。

◇当資料に掲載しております情報は、2016年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、
内容についていかなる保証を行うものではありません。

◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、
実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。

◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

————— プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口 —————

オリジン電気株式会社

経営企画部

TEL:048－755－9422